

令和元年度 第2号

湖畔

北海道立大沼学園

〒 041-1355

北海道亀田郡七飯町字西大沼 8 番地

TEL 0138-67-2014

FAX 0138-67-2032

hofuku.onumagakuen1@pref.hokkaido.lg.jp

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/hf/ong/>

小説 セバット・ソング 発刊に寄せて

大沼学園長 三浦辰也

学園は正面に小沼。寮舎背後には深い森。空を見上げると、澄んだ青が広がっています。晩秋の頃からか夜間に公宅を抜け出し、満天の星を眺めるようになりました。近隣に光源がないことから、その煌めきに圧倒されます。ふと足下に目を落とすとミヤマクワガタが夜露にぬれた芝の上でどこを目指しているのか黙々と前に進んでいます。昨年の今頃「湖畔」で、児童支援体制変更の覚悟を「迷蝶のごとく彷徨うわけには参りません」と示させて頂きました。その顛末は前号でお知らせしたとおりです。8月。3寮目を開寮すると堰を切ったように入所照会が手元に届きました。1寮は既に10名定員中9名、夫婦寮もほぼ同数。開寮したばかりの寮は新生生を受け入れたばかり。寮担当職員は、子どもたちと共に「生活文化」を創らねばなりません。寮の規則、ルールを守ることは二の次三の次なのです。交替寮にあっては、職員個々と園生との極めて個人的な関係、日々の何気ない生活を通じ、互いを知ることが先決なのです。これを寮のルールだ、規則はこうなっているからと型にはめ込むことの窮屈さといったら、園生よりも交替寮の職員個々が疲弊してしまうのです。春に新規に開寮した寮はこの状態に陥ってしまいました。日々の生活の中で自ずと淘汰されるのをじっくり持つことには忍耐が必要でした。園生は容赦なく私たちに課題を提供してくれます。その支援が功を奏さないのは規則、ルールが徹底していないからだ、職員間の共通認識がないからだ。果たしてそうなのだろうか。学園生活で、何もないことが良きことなのだろうか。日々何かあることが日常なのではないだろうか。だからこそ、大人と子どもとの会話が生まれるのではないだろうか。そこにこそ、園生が学園で生活する意味があるのではないだろうか。指導する側、される側の戦いではない。園生が抱えた課題との対決なのだ。これを見誤ると、いとも簡単に園生はその職員から離れ、顔の見えない人となる。

11月5日、作家谷村志穂氏による小説「セバット・ソング」が潮出版社より全国発売となりました。2016年より、当園は守秘義務の厳守並びに個人情報の秘匿を条件に取材に協力してきました。月刊誌連載終了後、改稿を経ての刊行です。全国児童自立支援施設協議会事務局を通じ、厚労省、警察庁、全国社会福祉協議会などにも紹介されています。連載に伴走させていただき、作家が最も配慮されていると感じたのは、誰をも傷つけない筆致です。幼少期からの過酷な生活に耐えながらも児童自立支援施設で生活を余儀なくされたきょうだい(兄と妹)は、施設生活を通じて成長していきます。時に心折れ、時に励まされ光明を見いだそうと懸命に生きる道を探し求めます。寄り添う施設職員や彼らを支える人々と織りなすその姿は読者自身の立ち位置により全く趣を異にします。

福祉関係で仕事をされている方、学びの中にある方、施設生活を経験された方、施設で生活をしている子どもたち、さらに、辛苦の中で生きていかなければならぬ子どもたちが、自身のほど近いところで生活していることを多くの方に知って頂きたい。作家の目。それは主人公らに対する優しいまなざしと励ましです。私がそうであったように、読者の一人一人の物語に重ね合わせていただき、「セバット・ソング」に登場する主人公らを励まして頂きたいと思うのです。



中学2年生～宿泊研修

児童自立支援専門員 関口 聖人

7月に毎年恒例の宿泊研修が行われました。鈴蘭谷分校の主導で行われる行事ですが毎年学園職員も参加しています。私は今年で3年連続の参加となりました。

昨年度は函館の歴史について学ぶために函館山付近を散策しながらの学習を行いました。今年度は函館の歴史を学ぶほか、職業体験をとおして働くことへの意識を高めることも目標としたため職業体験も組み込まれています。鹿部間欠泉公園を回り縄文文化センターでは国宝の中空土偶を見学、その後縄文時代の衣装を着てのアクセサリ製作。職業体験では、植物園での雑草取りに取り組みました。普段から園内で作業していることもあってか、その仕事ぶりにお褒めの言葉をいただきました。普段から学園で行っている仕事を学園以外の場所と人に評価されることは児童達にとっても良い経験になったのではないかと思います。

僕は7月11日～12日に宿泊研修に行ってきました。今回の宿泊研修では、いろいろな体験学習をしました。特に印象に残っているのが、植物園での職業体験で雑草抜きをした事です。職業体験では、仕事の大変さが良くわかりました。今回の宿泊研修で学んだ事を良い機会にしてこれからの生活に生かしていきたいと思います。

中2・Tくん



夏期キャンプ

専門主任 斉藤 孝宏

今年で4年目になる学園全体でのキャンプを、今年も上磯ダム公園キャンプ場で行いました。今年のは交替寮が始まった関係で、子どもの数と職員の数がほぼ同じという状況でしたが、大きな怪我やトラブルもなく、無事に終えることができました。

毎年恒例になっている川釣りでは、糸をからませる子どももいますが、それでも魚が釣れるととてもうれしそうにしていたのが印象的でした。釣りをするという経験は、最近ではどんどん少なくなっている中でこの経験は、子どもたちが大人になったときに役に立つものになっていると思います。

そして、職員が主導となって行われるキャンプファイヤーは今年も大盛り上がりでした。ものまねゲームや〇×クイズなど、普段とは違った遊びで楽しそうにしていました。

キャンプを通じて、調理や遊びの中で、自分の人生に使える「糧」を子どもたちが一つでも多く手に入れられれば、そしてそれをいつか大人になったときに、自らの家族に還元していくようなことがあれば、担当としてはうれしい限りです。

キャンプでは、うれしくて、テンションも高くなってしまい、失敗したこともありましたが、一番心に残ったのは、夜にみんなでレクをしたことです。理由は、みんなで、協力して遊んだり、考えたりしたからです。今回、キャンプで学んだことは、いつもの生活がいかに便利であるかということを知ることができたということです。

中1・Tくん



大沼地区少年野球大会

福祉指導員 成田 健悟

令和元年9月7日から8日にかけて、第71回大沼地区少年野球大会が北海道立大沼学園グラウンドにて開催されました。天気は快晴で絶好の野球日和であり、選手達は自然あふれるグラウンドではつらつとプレーしていました。この大会は野球部の活動を総括する大会であり、子ども達及び私たち職員はとても気合いを入れて大会に臨みました。今年の4月、野球クラブ活動当初は野球初心者の子もがほとんどであり、野球のルールも知らない子どももいました。そこから日々練習を重ね、全日本少年野球東北・北海道地区大会で味わった悔しさもバネにここまで努力していきました。

大沼学園の野球はいわゆる「昔ながらの野球」です。守備ではバッテリー中心に守り、攻撃では出塁した走者をバントで進塁させ、1点ずつ得点していく。この昔ながらの野球において大事なことはチームプレイの徹底です。「バントで自分がアウトになっても走者を進める」「チームのために投げる、守る」このことを子ども達には大沼地区少年野球大会を通じて学んでほしいと思いながら、試合に臨みました。

初戦は大中山・森中学校と対戦。攻撃ではチャンスは作るものの、あと1本が出ず、守備では打力のある相手に対して点は許すものの、以前のような大量失点を許すことはさせませんでした。結果0:6で敗戦したものの、非常に締まったナイスゲームだと思います。特にチームプレイは徹底出来ていました。チームの勝利を第一に考え、自主的にバントを行い、ランナーを進めた子、味方のエラーに対しても優しく声がけし、あきらめず試合終了まで投げた子、子どもたち全員が自分の活躍よりもチームの勝利を優先したからこそ、素晴らしい試合が出来たのだと思います。この経験をこれからの生活に大いに生かしてくれることを臨みます。

自分の学校の綺麗に整備されたグラウンドでチームの勝利を目指してはつらつと野球を楽しむ。きっと子どもたちには素晴らしい思い出になったことなのでしょう。私の野球人生においてもこの第71回大沼地区少年野球大会は良い思い出の一つとなりました。



今回の大沼地区野球大会は9月7・8日にありました。僕はキャッチャー、そして主将として出場しました。試合は、みんなで声を出し一生懸命プレーしましたが負けてしまいました。今回の大沼地区野球大会を通して、クラブが始まった4月に比べ、一人一人は声をだし全力でプレーできていたと思います。これからは受験があるので、勉強をもっと頑張って、高校に行って3年間学校に通いたいです。

中3・Sくん



マラソン大会

福祉専門員 佐藤 勇介

令和元年9月11日に大沼学園マラソン大会が開催されました。

子どもたちはこの日のために体育の授業や寮活動でマラソン練習を行ってきました。

職員もこの日に向け、前日からスタート地点やコースの環境整備を行い、万全の状態のマラソン大会に臨むと思っていた矢先、開会式後から強い雨が降り始めました。生憎の悪天候の中でのスタートとなりましたが、子どもたちは一斉にゴールに向かって走って行きました。途中体力が続かず歩いてしまう児童もいたものの、最後まで諦めることなく全員完走することができました。途中、きつそうな顔をしながらも一生懸命に走る児童の姿がとても印象深く、思わずそばによって励ましたくなりましたが、そんな思いとは裏腹に子どもたちは自力でゴールに向かい進んでいきました。中にはいやいや参加していた児童もいましたが、最後まで諦めることなく走りきった児童をみて改めて子どもたちの持つ「力」を感じました。子どもたちの持っている「力」を最大限引き出してあげることこそ私たち職員の仕事なのだと改めて感じました。

マラソンを走りきった児童の顔を見るとどこか誇らしげに見え、子どもたちにとって、また、職員にとっても、とても良い経験になったのではないかと思います。

僕は今年マラソン大会で2連覇できて、すごくうれしかったです。練習を通じて、課題の、逆境の場面でイライラしてしまうという課題があるのがわかりました。本番で、優勝はしたけど、生活状況が良くなって、みんなで優勝を祝えなかったのが残念でした。これも経験だと思い、今後の寮生活などに生かしていくように心がけたいです。

中3・Kくん



中学三年～修学旅行

福祉指導員 奥田 寛崇

令和元年9月18日から20日にかけて、中学校3年生4名、引率職員4名の計8名で修学旅行に行ってきました。小樽、ニセコ、留寿都とまわり、それぞれの場所で学習をしてきました。小樽では、水族館を見学し、生き物の生態系を学び、ニセコではツリートレッキングが雨で出来ませんでした。ラフティングで仲間と協力して川を下りました。最終日の留寿都では、ルスツリゾートで様々なアトラクションを楽しみました。大沼学園に来なかったら出会わなかったであろう4名が、協力して、楽しみながら学習している姿は、大変素晴らしいものであったと思っています。また、分校教諭と学園職員が一丸となって、子どもと一緒に時間を過ごせる貴重な場であったとも思っています。大きな怪我やトラブルもなく、穏やかで有意義な修学旅行となりました。野球部の活動も終わり、いよいよ受験生としての意識も高くなってきているように思います。修学旅行で培った集団行動の大切さを、高校に進学した後も忘れずに活用してくれれば、心からそう願っています。

僕はこの修学旅行の思い出は2つありした。1つ目は小樽運河さんさくで水天宮に行こうとしましたがエネオスについてしまったことです。そのあとに水天宮に行くことは出来ました。2つ目は小樽水族館のアシカショーでアシカにわを投げるので手を上げたら当たってわをアシカに投げました。人がいっぱいいたのできんちょうしました。

中3・Sくん



寮炊事遠足

自立生活支援 主査 斉藤 利昭

今年の寮炊事遠足は、新しい交替寮の先生方が初めて迎える行事ということもあり、数年ぶりに全寮で実施をしました。「炊事遠足」と名付けられていますが、従来のように炊事用品や食材をリヤカーに乗せて目的地まで運ぶのではなく、今回はお弁当を持参しての遠足となりました。

秋晴れの穏やかな天候の中で…と言いたいところでしたが、8時45分の出発時こそ晴れ間が見えたものの、暫く歩き出すと霧雨になり、霧雨から小雨に変わり、ついには小雨から本格的な雨となりました。大沼駅前トイレタイムを取った際に、担当者としては引き返すなら今だとの思いも一瞬頭を過りましたが、先生方や生徒の表情を見渡すと、引き返す素振りも全くなく、行く気満々に見えてしまい（すいません。勝手にそのように思っていました）、そこで今日は最後までやりきるという腹が決まりました。それでも雨は一向に止む気配もなく、むしろ空もどんよりと暗くなり始め、嫌な空模様となりました。せめて、少しでも雨が凌げればと、寮母に連絡をして全員分の傘を持ってきてもらいましたが、誰も傘をさす気配もなく、むしろ雨の中を歩くことを楽しんでいるようにも見えました。

そんな中で黙々と歩く人、楽しくお喋りをしながら歩く人、疲れ始めて集団から遅れて歩く人など様々でしたが、私から見ると園長先生が一番元気に歩いていてのように思います。それは子どものように、生徒にちょっかいを掛けながら歩いてみたり、急に走り出したりと、とても定年間近の職員には見えませんでした。

目的地である東大沼キャンプ場に近づくにつれ、天気も嘘のように回復し始めて、晴れ間も見えるようになりました。東大沼キャンプ場に到着して、みんなでお昼ご飯を食べました。その後は暫く休憩したり、遊んだりした後に、いよいよゴールの学園目指して歩くだけです。天気はすっかりと回復して暖かな秋晴れとなり、湖畔沿いを歩くことが気持ちの良い天候や気温になりました。しかし、私の経験からも、後半に歩くことのほうがしんどいとの思いがあり、暫く歩いて行くと、案の定先頭集団から最後尾までの距離がかなり離れてしまいました。それでも途中途中で休憩や間食タイムを取りながら、全員がゴール目指して歩きました。

16時30分頃には無事にゴールをしました。一人だけ途中でやむを得ずにリタイヤしましたが、それでもゴールした瞬間の子どもたちの表情はとっても良い表情をしていました。体や足の痛みも相当あったと思いますが、それ以上に充実感や達成感を感じていたように思います。

この行事の担当者の目的は2つです。1つ目は、大沼国定公園内に位置する大沼・小沼湖畔と雄大な駒ヶ岳の素晴らしいロケーションの中を、湖畔1周歩ききることはなかなか出来ない事です。彼らが、学園生活の様々な行事の中でも良き思い出の一つとして残るような行事にしたかったこと。2つ目は、これから彼らが待ち受ける人生の中では、辛いこと、嫌なこと、苦しいことがたくさんあると思います。それでも、今回の遠足のように目的やゴールに向かって、ゆっくりでも自分の足で一歩一歩歩いて行けば、いつか必ず乗り越えたり、達成できることを学んで欲しかったことです。辛くても、途中で投げ出さず、引き返さず、諦めないで乗り越えて欲しいという私からの密かなメッセージです。そんな思いが数十年後に伝わればと良いと感じています。炊事遠足のように大人と子どもが苦楽を共有することは、大切な機会でもあり、貴重なことではないかと思えます。

今回、園長先生や課長先生も初めて参加をして下さいました。また、先生方の中にはお休みにも関わらず、参加して下さいました先生もいます。みなさん、本当にお疲れ様でした！来年は全職員参加の中で実施をしたいと思えます。

* 歩行時間～約6時間 歩行距離～約24km 翌日以降の筋肉痛者～多数

思い出は、みんなで歩いている時に、すごい量の雨がふってきた事です。こういう思いを出来たのは今回が最後かもしれないからです。雨の中を歩くのもとても楽しかったです。キャンプ場でごはんを食べ終わった後にみんなで水切りをしてあそんだのも、炊事遠足での良い思い出です。長い距離を歩いて足が痛くなったんですけど、それ以上に達成感がとてもありました。

中2・Tくん



新設寮紹介

蛍雪寮

令和元年8月1日、蛍雪寮が再開しました。平成31年3月25日から休寮していたため、約4ヶ月ぶりの開寮となりました。これまでの蛍雪寮は、小舎夫婦制として長い年月を運営してきましたが、今回は8名のスタッフによる、交替寮でのスタートとなります。

開寮にあたり、かつて寮長寮母が住んでいた公宅に足を踏みいれると、そこには物が何もなく、改めて交替寮が始まるのだと実感しました。そして、8月15日に待望の新生を受け入れ、ようやく本格的に寮舎運営が始まりました。掃除や食事も子どもも職員も一緒になって、全力で行っています。

これからは、小舎夫婦制で当たり前のように行っていた子どもとの安定した関わりを、どのように行っていくかが課題となっていくと思います。また、小舎夫婦制に近づく、さらにいえば同じ土俵で子どもと関わっていくためには、交替寮の強みである多角的な視点とチームアプローチを最大限に生かしていかなければならないとも思っています。言うは易し、するは難しではありますが、これは職務として確実に遂行していきます。

最後になりますが、蛍雪寮をこれまで運営してきた諸先輩方、開寮に尽力してくださった本庁及び学園管理職、そして、地域の全ての皆様に感謝の気持ちを持ち、子どもの良き相談相手となれるよう職員が丸となって支援に当たっていきたいと思います。今後とも、よろしくお願いいたします。

子どもたちによる寮紹介

芝蘭寮

芝蘭寮では、あいさつや礼儀、返事を特に大切にしています。今はみんな版画をがんばっています。失敗する事もありますが、直したりして、みんながんばっています。芝蘭寮は、困っている人がいたら、「何か手伝いますか」とか「これやっておきますね」と聞いて良い寮です。他の寮とは違い芝蘭寮は、寮長先生と寮母先生が、ご夫婦で自分たちの生活を支えてくれています。先生方のお子さんと遊べるのも生活の中の楽しみの一つです。

中2・Tくん

晩翠寮

ばんすいりょうに3年間いて安どうりょうちょうという先生とあんどうりょうぼ先生といっしょに2年間すごし、畑でとれた野菜をつくってくれたりしたやさしい2人でした。そして4月からこうたいりょうになり、しどうされながらもいっしょに生活しています。ばんすいりょうはあんどう先生が、残してくれた、畑があって野菜をたくさん食べれるのがいいところです。こうたいりょうになってからも、楽しく生活したいです。

小5・Kくん

蛍雪寮

僕が生活している「蛍雪寮」を紹介します。蛍雪寮は現在、僕と一つ上の先輩と、7人のスポーツが大好きな先生と生活しています。僕たちの自慢は、掃除です。全員で毎朝毎晩雑巾で床を拭いています。誰がいつ来ても恥ずかしくないように、毎回心掛けて丁寧に掃除をしています。最近、僕は、掃除が好きになってきたので、これからもがんばります。

中2・Sくん



野球クラブ

福祉専門員 佐藤 勇介

今期の野球クラブでは、「全国大会出場」を目標に4月から9月まで野球に取り組んできました。前年度の冬から体育館で練習を行っていましたが、今年は雪解けも早く4月にはグラウンドでの練習を開始することが出来ました。

練習開始当初は、今まで野球をやったこともない児童も多く、キャッチボールすらままならない状態でしたが、日々の練習の中でしつこいくらい基礎練習を繰り返しました。児童からすると全く楽しくない練習だったと思いますが、少しずつ上達してくると児童たちも日課の空いた時間に自主的にキャッチボールを行うようになり、毎日のクラブを楽しみにするようになりました。

日々の練習は続き、6月の東北・北海道大会がやってきました。児童たちの気合いも十分に臨んだ大会でしたが、結果は3位でした。準決勝で負けてしまいましたが、児童らの精一杯のプレーや最後の整列で泣きじゃくる児童の姿を目にし、改めて児童の成長を感じることが出来ました。練習開始当初は「めんどくさい」「やりたくない」と口にしていた児童もいましたが、クラブの終わる頃には「もう野球できないんですか?」「もっとやりたいです」と心から野球を楽しんでいたようでした。

私自身、初めて野球クラブを担当し、暗中模索しながらの野球クラブでしたが、私の目標であった「野球の楽しさを知ってもらいたい」という目標は達成されたように思います。それ以上に児童たちは野球をとおしてチームワークや自己達成感を自ら学び取っていたようで、練習での雰囲気やチームメイトに対する声かけなど子どもたちなりに意識して行っていたように感じます。私自身、改めて「野球」の偉大さ、楽しさを知ると共に、子どもたちの成長、可能性を肌で感じた1年となりました。

僕は大沼学園で野球をして色々な事を学びました。まず一つ目は、チームのためになにかできる事を探してするようになったことです。前の学校では、大きい当たりをねらっていましたがここに来てからは、ヒットだけでも皆につながられるようにくふうしたりなどいろいろしました。二つ目はあいさつをいっぱいするようになった事です。しかも大きな声でできるようになりました。このようにできなかった事も続けていくうちにできるようになっていくのでできないからやめるのではなく、どんどんチャレンジしていきたいと思いました。

中3・Kくん

小学生クラブ

児童自立支援専門 関口 聖人

4月～9月の5ヶ月間、前期小学生クラブの活動がありました。昨年度は小学生4年生1人と職員3名での活動でしたが、今年度はとても元気な小学生が1人と職員も5人増え、小学5年生2人と職員7人の賑やかなクラブとなりました。児童の2人は野球がとても上手で素直な子と運動神経がよく元気で素直な子の2人です。クラブ開始当初は、つまらないことで揉めることや注意をされることも少なくなかった2人ですが職員も一緒に真剣に遊ぶことでもめ事も注意も自然に減っていきました。

今年度の活動も前年度と同様に野球を中心としたスポーツをとおしてルールやマナーを学ぶことを目標としていました。野球部の練習試合にも職員チームとして参加し、チームスポーツのルールやマナー、なにより楽しさを学びました。また、今年度はそれに加え園外活動として学園外に行く活動を追加しました。大沼周辺を学園で長く働く職員と散策し、今生活している場所の歴史や自然を学ぶ機会を設け、また普段行くことのないダムの見学を行い自然に触れると共に知見を広げました。

園内では学園の綺麗に整備された芝でパークゴルフや缶蹴りを体験し、学園の環境整備をしている職員に対する感謝の気持ちを育むことができました。

4月からの5ヶ月間、思えば児童よりも職員である私達が真剣に楽しく遊んでいました。一緒に真剣に遊ぶことをとおして私自身が子どもの関わり方を彼らから教えてもらったような気がします。次年度も職員一丸となり彼らと真剣に遊びたいと思います。

ぼくは小学生クラブで自分、大谷先生、ちくま先生、木村先生、中山先生、おりで先生、高橋先生、関口先生がたと八郎沼や大沼湖畔に行ったり駒ヶ岳ダムや野球部との練習試合とても楽しかったです。先生方がきて楽しいこともたくさんふえた。一番楽しかったことは園外活動です。またクラブをやりたいです。

小5・Sくん



「イワナ沢自然学習林」～池の水抜き大作戦～

元環境整備・実科生担当

主査 大國 伸夫

昭和56年の大沼学院、日吉学院統合に伴い、本館、体育館が新築され、併せて園内の環境整備計画の策定が進められました。地域社会に開かれた施設を目指して、昭和59年度から10カ年計画で旧本館、公宅群の跡地、および5ヶ寮舎周辺の整備を進め、この間、児童と職員がともに作業活動を通じてツツジや白樺、モミジや桜など400本以上を植樹し、芝生を敷き詰め、コンクリートを練って池を作り、園内を流れる小川には橋を架けるなどして、自らの生活環境を整えていきました。

平成元年からは実科生（中卒生）の就労支援を目的とした作業活動の中で、敷地南西隅にあった手つかずの自然林に池を造作することになり、その作業は晩秋11月半ばに周辺の笹藪を刈り払うことから始まりました。縦横8メートル、深さ2メートルの土砂を、スコップを使った手作業で掘り進めましたが、湧き出る水に悩まされ、かつて「ゴミ捨て場」だった地中からは古いストーブや多くの食器、衣服や三輪車までもが「発掘」され、さながら100年の歴史を持つ大沼学園の生活史を垣間見る思いがしました。3週間掘り続けた作業を終える頃には、池の表面には薄氷が張る季節になっていて、ただ黙々と冷たい泥まみれの土砂を懸命に運び出し続けた日々のは、今も忘れがたい思い出になっています。

翌年、代替わりした実科生達と、掘った穴の周りにコンクリート壁で囲む型枠パネルを回し、手作業でコンクリートを練ってはその型枠に流し込んで池の外郭を造作しました。その後コンクリートが固まるのを待って、七飯町の石切場から買い付けた割り栗石を運び入れ、一つ一つ壁の周りに積み上げ、池の底には玉砂利を敷き、ひと抱えもあるような石をいくつか組み合わせ魚の隠れ家にしました。

3年目は、また新たな実科生を迎え、池の周りの林に、野外学習に活用できるようにと先輩たちが冬の間制作した丸太のテーブルやベンチを配置し、ツツジやモミジ、ヒバや桜などの幼木を植え込み、『岩魚沢自然学習林』と銘を彫り込んだ看板を掲げました。

3ヶ年度に渡った工事は、それに携わった多くの児童にとって貴重な体験になり、彼らは自らが汗水流してできあがったこの景観に、少なからず誇りを感じるほどの思いを心に刻んでいたようです。退園した後に学園を訪れる彼らが、決まってその現場に足を運び、連れてきた家族や交際相手に「ここは俺たちが・・・」と当時の思い出話を語って聞かせている姿を見るにつけ、大変な作業だったからこそ、仲間とともに働き頑張った自分に対する自尊感情が芽生えたことが、同じ場面を共有した者としては、それが何よりの喜びであると感じています。

この秋、10数年ぶりに池底に堆積した泥や落ち葉などを除去する作業を行いました。「池の水抜き大作戦」です。それに先立って、30年ぶりに池に通じる側溝に渡された橋を新人職員の手を借りて新しく作り直しました。・・・ただ、当時と違うことは、そこに「実科生」の姿がなかったことです。

時代は、昭和から平成、そして令和と移り変わり、在籍する児童の構成もずいぶんと変化しました。かつて中学校を卒業したら就職する、それが大半の児童の進路でしたが、いまではほぼ100%の中卒生が高校などに進学します。平成の始まり頃には数多くいた「実科生」がほとんどいない、そんな時代になりました。

今回の作業は、この春着任した新人職員たちを中心に、園長以下多くの職員が終日泥まみれになって行いました。作業翌日、若い職員達が綺麗になった池に泳ぐ魚たちに歓声を上げている姿を見て、来春定年退職を控えた私は、自分たちが暮らすこの学園の環境は、その心持ちも含めて、自分たちの手で作り、育んでいく、という伝統が確実に引き継がれた思いがして、ほっと胸を撫で下ろしています。





～こんなに 綺麗になりました～

水を抜くことから始めます

池の水をきれいにするために、まずは川の上流を掃除をします。



ポンプとバケツリレーで水をどんどん出していきます。



水がなくなり、長年かけて溜まった泥を掻き出します。



石を積んで、水源の護岸作業を行いました。



園長先生はじめ、多くの男性職員の作業できれいな池によみがえりました。



ご寄附食品等

皆様のご厚情に心より感謝申し上げます

(令和元年7月～10月)

瀬川 鐘比 様 (東京都)	仲屋大明 様	
財津自工 様 (七飯町)	宮村内科 様 (七飯町)	佐藤隆三 様 (七飯町)
杉本秀則 様 (七飯町)	森脇和保 様 (函館市)	高野信子 様 (函館市)
井関翔太 様 (函館市)	七飯町更生保護女性会 様	コンベンションセンター 様

編集後記

暑い夏も終わり、紅葉がきれいな時期となってきました。大沼学園の景観もがらりと変わり、紅葉、銀杏の葉がきれいに色づいています。大沼学園に配属され、ようやく半年を過ぎましたが、大沼学園の自然の豊かさに日々圧倒されています。

先日、怒りの気持ちを上手くコントロール出来ない児童が、「イライラしたときに、敷地内を散歩したら気持ちが少し楽になりました」と話してくれました。職員とぶつかり、一目散に川の方へ飛び出す児童もいます。川のせせらぎを聞くと気持ちが落ち着き、自分自身の行動を振り返ることが出来るとその児童は話していました。改めて、大自然が子どもたちへ与える影響力を感じています。

その陰で、景観を保つために作業をする職員、子ども達の姿があります。先日行われたイワナ沢自然学習林の池の大掃除の際、長年大沼学園をみてきた大國主査より、現在の景観は大沼学園を卒業していった児童、職員によって作り出されてきたものであると教えて頂きました。当時、苦勞しながら作り上げたものが、現在の子ども達に良き影響となっている事を知り、とても感慨深い気持ちとなりました。

大沼学園の歴史が、子ども達に良き影響として受け継がれていくことを願うと共に、職員として現在学園で生活をしている児童に良き影響を与えられるよう、子ども達と共に成長していかなければと感じる毎日です。



学 園 の 動 向

令和元年度【7月～10月】

7月

- 3日 環境整備活動
- 5日 北海道児童相談所児童福祉司任用前研修（講師阿波加自立支援課長、札幌市）
- 10日 運営会議
- 11日 支援会議
- 12日 小学生カヌー体験（小沼湖畔）
- 16日 新規採用職員研修（柏谷福祉専門員、大谷福祉専門員、札幌市、～17日）
- 17日 小学生水泳学習 職員会議 医診 給食会議
- 21日 理髪
- 22日 内科検診 キャンプオリエンテーション 函館児相椎野秀基児童福祉司面接調査のため来園
- 23日 大掃除
- 24日 終業式 函館保護観察所宮下隆企画調整課長、七飯更生保護女性会水嶋八重子会長、社会を明るくする運動標語ポスター表彰のため来園
- 25日 夏休み（寮日課基本となる）
- 26日 阿波加自立支援課長出張（ケース調整、室蘭児相）
- 30日 キャンプ（上磯ダム公園、～31日）（株）カネヒロ 瀬川鐘比代表取締役参加

（7月：入所1名／退所1名）



8月

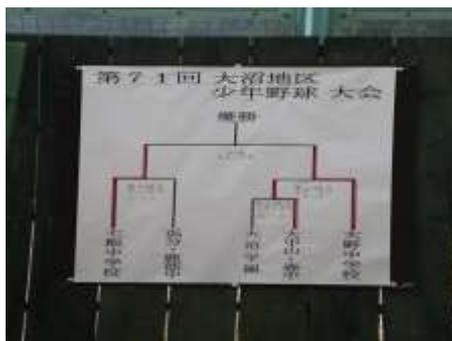
- 1日 函館児相椎野秀基児童福祉司面接調査のため来園
- 2日 一時帰省期間開始（残留児童は晩翠寮で対応） 残留行事：入浴（ちゃぷりん館、食事（回転寿司サムズ）
- 5日 残留行事：釣り（森漁港）
- 6日 残留行事：午後、炎天下、職員、児童で野球（グラウンド）
- 9日 残留行事：プール他（グリーンピア大沼）
- 11日 海水浴の残留行事予定は、天候不良のため中止
- 13日 残留行事：映画（シネマ太陽）
- 14日 一時帰省期間終了
- 16日 室蘭児相佐藤雅司児童福祉司調整のため来園
- 19日 始業式 内科検診
- 21日 運営会議 職員会議 医診
- 22日 支援会議
- 25日 作家谷村志穂氏ほか1名来園
- 28日 野球部、教職員チームと練習試合
- 29日 国際交流留学生4名来園交流
- 30日 授業参観日

（8月：入所2名／退所0名）



9月

- 1日 理髪
- 2日 休校日(分校開校記念日) 野球部教職員チームと練習試合 釧路市福祉部生活福祉事務所第5担当石川美佐総所長補佐見学のため来園
- 4日 札幌市児相高田義久児童福祉司、成瀬千香児童心理司児童移送のため来園
- 5日 連携会議 七飯町教育委員会竹内圭介学校教育課長、道教育庁学校教育局義務教育課義務教育グループ大槻拓磨主幹、同グループロ町和之主査、渡島教育局箕浦真人教育支援課長、道保健福祉部子ども未来推進局子ども子育て支援課吉本考秀主査、会議出席のため来園
- 7日 第71回大沼地区少年野球大会(第1日目)
 - 七飯中 5-3 浜分・鹿部中
 - 大沼学園 0-6 ○大中山・森中
 - 大野中 3-2 大中山・森中
- 8日 野球大会(第2日目:決勝戦)
 - 七飯中 1-2 ○大野中
 7回終了後促進ルールにより決着
- 11日 マラソン大会(雨天決行)
- 12日 運営会議
- 13日 中3生学力テスト(総合A)
- 17日 藍染作家川真田弘氏ご夫妻来園
- 18日 中3生修学旅行(後志管内、~20日)
 - 職員会議 医診
- 25日 支援会議
- 26日 避難訓練
- 27日 小学生社会科見学(函館市) 自然学習林架橋工事完成
- 29日 遠足 8時45分で学園出発、東大沼キャンプ場で昼食、大沼湖畔をほぼ周回し、16時30分学園到着、児童職員とも全行程約24km完歩。
 - (9月:入所1名/退所1名)
 - *****



10月

- 1日 衣替え
- 2日 釧路児相との連絡協議会 江渡弘幸児童福祉司出席のため来園
- 3日 札幌市母子生活支援施設連合会(10名) 見学のため来園
- 7日 新規採用職員研修(伊藤福祉指導員、
- 8日 札幌市、~11日)
- 9日 巡回健康診断(職員)
 - 運営会議 自然学習林の池大掃除(実科担当職員ほか)
- 10日 中3生学力テスト(総合B) 函館児相市町村職員研修 函館児相岡部ひとみ専門主任、函館市次世代育成課塚本哲路主査、同課櫻井沙織家庭児童相談員、八雲町子育て支援センター松本忍支援係長、同数村竜輔社会福祉士出席のため来園 帯広児相中原千賀子児童福祉司、六本木清文児童福祉司見学のため来園
- 12日 台風19号深夜本州から道内太平洋側通過、大沼は夜半風雨強なるも被害なし
- 14日 和太鼓ワークショップ 作曲家佐藤三昭氏、七飯男爵太鼓8名と指導のため来園
- 15日 授業参観日 道政パネル展(※学園の広報、渡島総合振興局、~18日)
- 16日 職員会議 医診
- 17日 旭川児相との連絡協議会 齊藤博美子ども支援課長、埴志穂児童福祉司、鈴木大介児童福祉司、年藤香苗判定員出席のため来園
- 20日 理髪
- 21日 内科検診
- 23日 支援会議 中央児相との連絡協議会 野沢修一所長、森山翔子児童福祉司、石山貴寛判定員出席のため来園
 - 避難訓練
- 25日 室蘭児相との連絡協議会 佐藤雅司児童福祉司、赤木淳児童福祉司出席のため来園
- 26日 体育館ワックスがけ(~27日)
- 30日 環境整備活動 渡島総合振興局保健環境部社会福祉課齊藤涉課長ほか14名見学のため来園
 - (10月:入所1名/退所0名)
 - *****



